

◎教育目標

考える子 思いやりのある子 たくましい子

○目指す児童像

(知) 自ら学び考え
(徳) 互いを認め合い助け合う思いやりの心を持ち
(体) 目標に向かって挑戦できる茂呂小の子

◇目指す学校像

一人一人が目標に向かって主体的に挑戦し、躍動する学校

◇教育課題・教育計画

- ・確かな学力の向上 ① 考え表現する力の育成
② 家庭学習づくり
- ・共生 ① 豊かな心と社会性の育成
② 自己肯定感・自己有用感の向上
- ・自信と向上心 ① 主体性の育成と自己実現
② 健康・生活づくりと安全力の向上

※努力点

ア 児童が充実感とともに自己肯定感、自己有用感を高められるよう、一人一人が様々な役割を担う機会を通し、自信や意欲等、心を育てる教育活動を展開する。

イ 「なぜ?」「なるほど」「次はこうしたい」を大切にし、児童が主体的に考えを深め、表現できるよう、「学び合い」を重視した授業改善を図る。

ウ 温かさを基盤とする優しさと厳しさにより、児童が規律ある生活の大切さに気づき、責任と自律ある行動や、望ましい生き方を追求する態度を育てる。

エ 学校と家庭との連携を深め、教育相談を組織的に展開し、保護者とともに児童の健やかな成長を目指し、いじめや不登校などを未然に防止する。

自分からチャレンジ、みんなでチャレンジ

すべての児童の可能性を引き出す教育活動 学習と特別活動で「心」を育てる

「ありがとう」が言える人になろう

「確かな学力の向上」のために

① 考え表現する力の育成

- 中学での学びにつながる基礎基本の確実な習得
 - ・授業中の学習規律の徹底、ノート指導の徹底
 - ・一単位時間における基本的な「学び方」(学習の流れ)の習得(めあて→自分で考える→みんなで考える→まとめ→振り返り)
 - ・各教科等の指導内容の確実な習得 (茂呂小スタイル)
- 「主体的・対話的で深い学び」につながる「学び合い」の充実
 - ・「なぜ?」「なるほど」「もっとやってみよう」「次はこうしたい」を引き出す学びの充実(学校だからこそできる、学校でこそすべき学びの重視)
- 総合的な学習の時間等、探究的な学習の充実
- ICT(一人1台端末)の効果的な活用による授業づくり
- 校内研修や学年・教科部会を核とした教職員全体の指導力向上
- 一人1授業の実践による教職員個々の指導力向上
- NRTや全国学力学習状況調査結果等の分析による授業の改善充実

② 家庭学習づくり

- 学習内容と学習習慣の定着を目指す、家庭学習(「宿題」)の工夫
- 自分で考えた学習計画に基づく自主学習の推進
 - ・「チャレンジノート」の取組、「チャレンジノート」紹介コーナー
- 読書活動の推進、新聞に慣れ親しむ展示コーナーの工夫

「共生」のために

① 豊かな心と社会性の育成

- 互いに認め合い、一人一人が輝く学級・学年経営の充実
 - ・児童一人一人が活躍できる場づくりと称賛
- 特別活動を核とした、温かで互いに認め合い、高め合える「よりよい集団づくり」
 - ・意思決定や合意形成の機能を生かした、よりよい集団づくり
 - ・児童の主体性を育む児童会活動の活性化
 - ・「茂呂小ハッピープロジェクト」の充実
- 道徳科を要とした教育活動全体を通じた道徳教育
 - ・道徳科との関連を踏まえた、各教科・総合的な学習の時間・特別活動の意図的・計画的な取組

② 自己肯定感・自己有用感の向上

- 「ほめる」「認める」「励ます」支援
 - 一人一人が活躍できる場や機会の意図的・計画的な設定
- 集団の中で役割を果たし、仲間の役に立つ喜びの獲得
 - ・学級や学年、委員会、たてわり等の集団で役割を果たし、一人一人が集団(仲間)から必要とされている実感の獲得
 - ・小さなボランティア活動の推奨
- 思いを大切にしたい感動ある諸行事の効果的な展開
 - ・目的を明確にして児童会活動と連動し、児童が主体的に取り組み、魅力ある活動となるような学校行事等の推進

「自信と向上心」のために

① 主体性の育成と自己実現

- 夢や希望、思い、生き方を育むキャリア教育の推進
 - ・キャリア教育全体計画に基づいた実践
 - ・キャリアパスポート活用による定期的な振り返り
- 学級会、係・当番活動、委員会活動、クラブ活動、たてわり活動の充実
 - ・「自分たちの学校は自分たちでよりよくする」という意識と姿勢の育成
 - ・「自分(たち)はやればできる」という自信の獲得
 - ・「次は(さらに)こうしたい」という意欲の向上
- 本物の「人・もの・こと」にふれる自然・社会・文化体験活動の充実
- みんなで一つのことに取り組む活動の充実

② 健康・生活づくりと安全力の向上

- 「体力向上プラン」を基にした、運動することの楽しさや仲間とかかわる喜びの獲得
 - ・茂呂小オリンピック、外で遊ぼうデー等の実施
- 健康課題改善に向けた「学校保健委員会」等の取組
- 交通安全、防災(自然災害)等、危機回避能力の育成
- 計画的な「食に関する指導」の充実
- インターネットやSNS等の正しい使い方等の情報モラルの向上

成長を促す指導等の「積極的な生徒指導」の組織的推進

- ※「教えて、考えさせる」指導による、責任ある自律的な行動の促進
- 学習・生活規律(「あいさつ・校歌・身だしなみ」等)の徹底
- いじめ・不登校の未然防止(特別活動の積極的な推進)
 - ・「私(私たち)はやればできる」という自信 「もっとやれる」という意欲や向上心
 - ・「仲間がいたからやり遂げられた(できた)」という絆づくり
 - ・「茂呂小学校いじめ防止基本方針」に基づく、いじめや不登校の未然防止と早期解決
- ※いじめ見逃し0(ゼロ)
 - ・児童主体のいじめ防止活動の推進、あいさつ運動の展開、茂呂小ハッピープロジェクト
 - ・児童の交流を大切にしたい、主体的で高い意識の人権感覚の醸成
- 多面的児童理解
 - ・生徒指導委員会、学年会の有機的な関連による多面的児童理解に基づく、教職員の共通実践及び組織的対応

地域とともにある学校づくりの展開

- 学校評価、学校評議員会の効果的活用
- 学校支援センターの充実
 - ・スマイルサポーター(大学生ボランティア)の積極的な活用
 - ・読み聞かせボランティアの継続
 - ・家庭科学習や龍頭神舞、マーチング等への地域人材やゲストティーチャーの活用
- 効果的な情報発信
 - ・学校だより、学年(学級)だより、学校ブログによる、子供たちの活躍の情報発信
 - ・一中地区共同事務室の情報発信「事務だより」発行
- ふるさと学習の実践を通して、地域を知り、地域への誇りの高揚
- 学府(一中地区連携推進協議会)による連携事業の推進

※子供たちと向き合う時間を確保し、より豊かな学びを届けるための「働きやすい環境の整備」(業務改善)

- 「提言R6」に基づいた、業務の在り方の不断の検討
- ICTの効果的活用(C4thの一層の活用、ペーパーレス化の一層の推進等)
- 整理整頓された、清潔で気持ちの良い職場環境づくり(5S)